

J.S.Bach Inventionen

バッハ インヴェンション

第7番 ホ短調 BWV778

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、バッハの作品を演奏するにあたって	3
1. バッハ「インヴェンション」第7番 e moll BWV 778 楽譜	4
2. 装飾記号の演奏と版により異なる音について	6
3. バッハ「インヴェンション」第7番 e moll BWV 778 第 I 展開部の楽曲分析と演奏法について	8
4. バッハ「インヴェンション」第7番 e moll BWV 778 第 II 展開部の楽曲分析と演奏法について	11
5. バッハ「インヴェンション」第7番 e moll BWV 778 第 III 展開部の楽曲分析と演奏法について	13
6. 楽譜に 3～5 のアナリーゼの内容を表記しました。 テンポ、強弱も記しました。	16

■はじめに

2003年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012年に PDF 書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂け、パソコンの前で頭が下がる思いでおります。

この度、全 15 曲の PDF 書籍、それから You tube 講座の全面作り直しをする事と致しました。

ピアノ初心者の方、それから、最近ではコンクール課題において、小学 5, 6 年生がインヴェンションを演奏しているようです。そういった子供達にも理解出来るように制作したいと考えています。

(2019年3月)

■バッハの作品を演奏するにあたって

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (*Johann Sebastian Bach* 1685-1750) は、ドイツの作曲家でバロック音楽の重要な作曲家の一人です。「音楽の父」と称される音楽家でもあります。

バロック音楽というのは、ヨーロッパにおける 17 世紀初頭から 18 世紀半ばまでの音楽の総称です。バロック音楽の作曲家は、ジュリオ・カッチーニ (1545-1618) (イタリア・ルネサンス音楽末期、バロック音楽初期の作曲家となります)、ドメニコ・スカッラッティ (1685-1757)、アントニオ・ルーチョ・ヴィヴァルディ (1678-1741)、ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750)、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル (1685-1759) などが上げられます。

今から 300 年くらい前の時代です。ピアノという楽器はありませんでした。ピアノの原型にあたりますチェンバロ (独: *Cembalo*, 伊: *clavicembalo*) で演奏されていました。このチェンバロは、英語ではハープシコード (*harpsichord*)、フランス語ではクラヴサン (*clavecin*) といいます。

ピアノとチェンバロの違いは、まず、チェンバロにはペダルがない事があげられます。ですので、今日、ピアノでバッハを演奏する場合にも、基本的にはペダルは使用しません。次に音を出す原理が違います。ピアノは、弦をハンマーで叩くことで音が出ます。しかし、チェンバロは、爪状のプレクトラムで弦を掻いて発音します。ですので、チェンバロではピアノのようなダイナミクスな演奏は出来ません。

それから、バッハの音楽は対位法的音楽です。多声音楽で出来ています。多声音楽の事をポリフォニー (*polyphony*) といいます。ポリフォニー (*polyphony*) の対義語としては、ホモフォニー (英語: *homophony*、独語もしくは仏語: *Homophonie*) となります。和声音楽です。

曲集に採用されています 15 調は、ハ長調ーハ短調ーニ長調ーニ短調ー変ホ長調ーホ長調ーホ短調ーヘ長調ーヘ短調ート長調ート短調ーイ長調ーイ短調ー変ロ長調ーロ短調 と 嬰へ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く 15 調が上行形に整えられています。(シャープ、フラット 4 つまでの調です。) このように調が整えられている事も、バッハの作品の特徴とも言えます。

Inventio 7

Johann Sebastian Bach
BWV 778

The musical score for Invention No. 7, BWV 778, is presented in five systems. Each system consists of a treble clef staff and a bass clef staff. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 3/4. The score includes various musical notations such as slurs, ornaments, and fingerings. The first system begins with a treble clef and a bass clef. The second system continues the piece. The third system features a trill in the treble staff. The fourth system has a fermata in the treble staff. The fifth system concludes the piece with a final cadence. Fingerings, slurs, and ornaments are indicated throughout the score.

2. 装飾記号の演奏と版により異なる音について

装飾記号の演奏例について説明させていただきます。

1小節

は、

と演奏して下さい。

1小節4拍目に ∞ を入れるように指示しています版もあります。

その場合は、

と演奏して下さい。

2小節4拍目上声の ∞ は、 または と演奏して下さい。

3. 第 I 展開部の楽曲分析と演奏法について

第7番は、第1番と類似した手法で書かれています。

まず、この曲の主題は以下となります。



この主題に対し、第一対旋律が置かれています。



3つの展開部から構成されていますが、第I展開部は、1~6小節となります。第I展開部を、3つの区分に分けて捉える事が出来ます。

Aにあたります1~2小節。



主題が上声、下声と交互にかけあい、それに対し上声に第一対旋律が置かれています。主題の提示と模倣です。